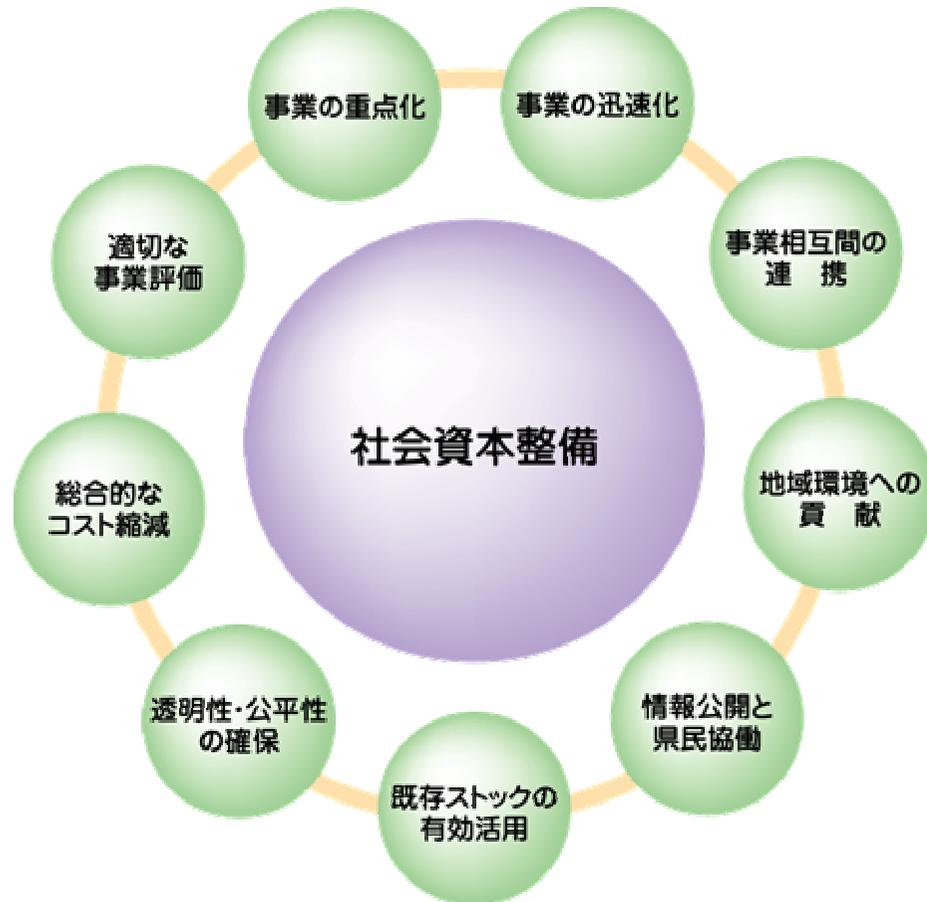


取組方針

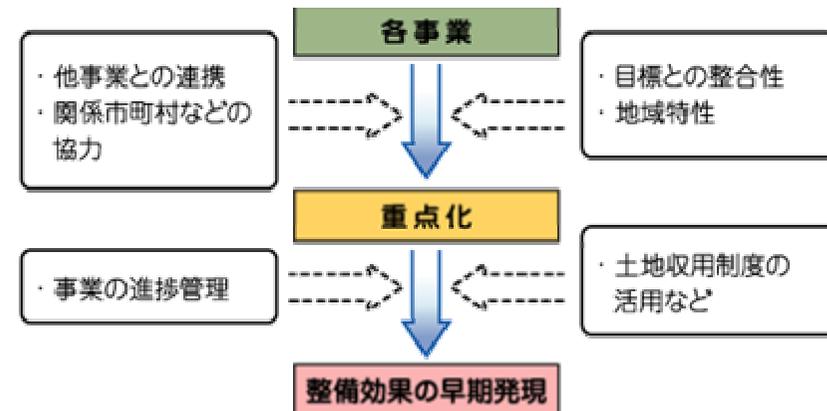


1 事業の重点化

将来目標を達成するため、地域特性を活かした重点投資により、整備効果の早期発現を目指します。

2 事業の迅速化

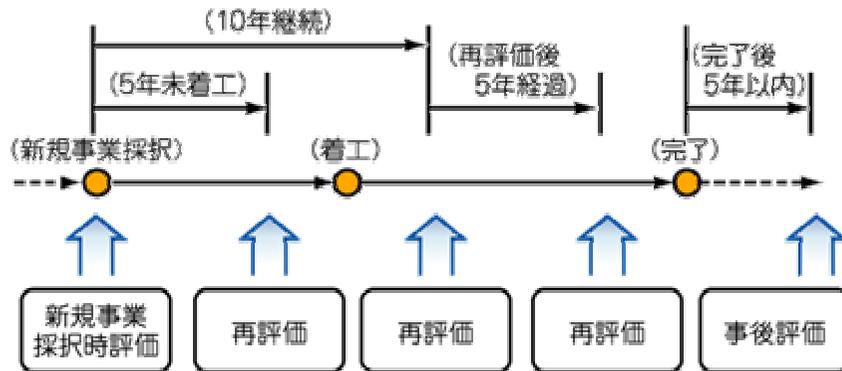
早期完成の必要に応じて土地収用制度の活用を図るなど、事業の進捗管理を徹底します。



3 適切な事業評価

公共事業の効率化と透明性の確保を図るため、主な事業について事業着手段階での「事前評価」、実施中の「再評価」を実施します。また、事業完了後の「事後評価」の試行を行い、効果の確認と改善措置の検討等を行います。

【 事業評価の流れ(イメージ) 】

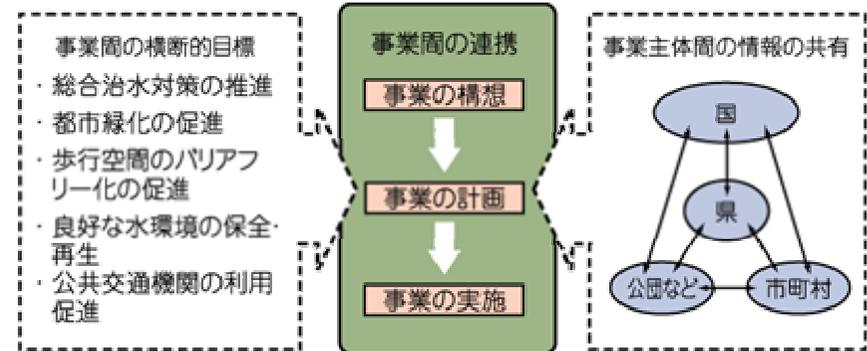


【 事業評価の目的 】

- 新規事業採択時評価
- 事業実施の可否に係る方針を決定
- 再評価
- 事業の継続・中止に係る方針を決定
- 事後評価
- 改善措置、再事後評価の方針を決定
- 必要に応じて同種事業の計画・調査等に反映

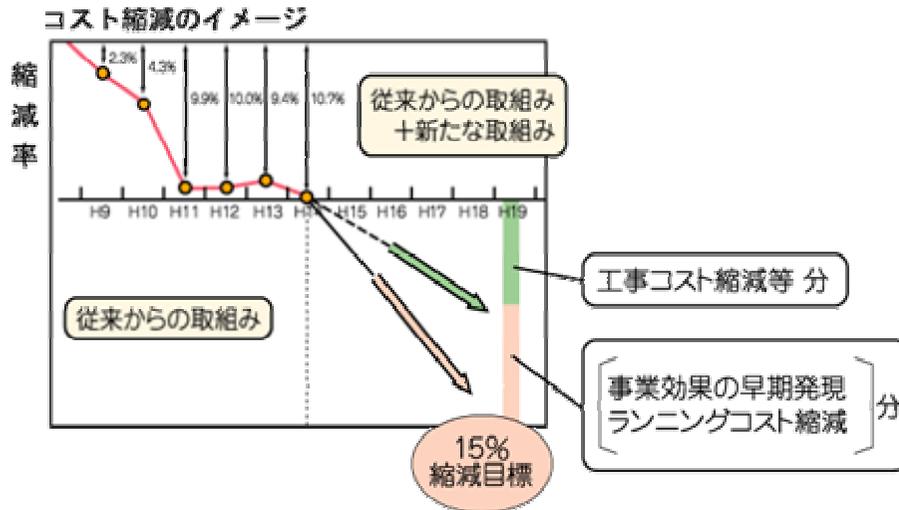
4 事業相互間の連携

事業の構想、計画、実施の各段階での事業間の連携を促進します。その際には、事業間の横断的な目標を意識し、相互の効率性の向上や相乗的な効果の発現に努めます。



5 総合的なコスト縮減

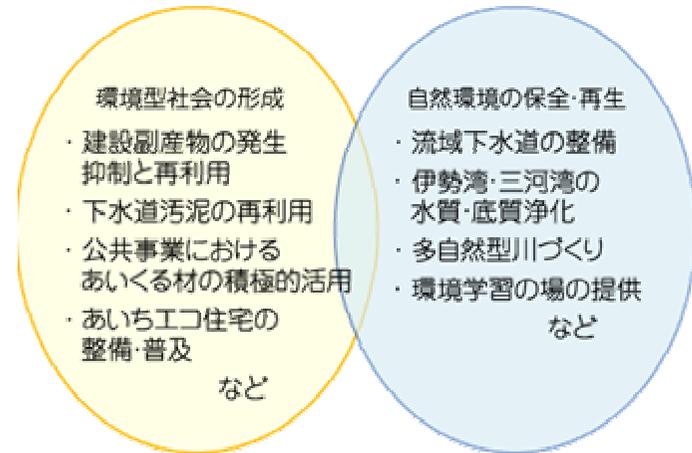
社会資本の整備にあたっては、より低コストで質の高い事業を実現するため、新工法・新技術の採用等による直接的な工事コストの縮減や工事におけるリサイクルの推進など社会的コストの縮減に加え、事業の迅速化による早期の事業便益の発現や将来の維持管理費の低減など国の「公共事業コスト構造改革プログラム(H15.9)」等を踏まえた総合的なコスト縮減に取り組みます。



6 地域環境への貢献

環境をテーマとする「愛知万博」の理念を活かして、全国に先駆けた「環境」への取組を行います。このため、公共事業でのリサイクル材(あいくる材)の積極的活用など循環型社会の形成に貢献します。

また、社会資本の整備に当たり地域の環境への負荷を最小限にするよう努めるとともに、水環境の改善や自然環境の保全・再生に取り組みます。



あいくる材；愛知県リサイクル資材評価制度(あいくる)で認定したリサイクル製品

あいちエコ住宅；温暖な愛知の気候風土を活かした地球と人にやさしい住宅で、次の3つの目標をもって環境に配慮
 快適・健康に住むことのできる住宅
 地球環境にやさしい住宅
 地域環境と調和した住宅

7 透明性・公平性の確保

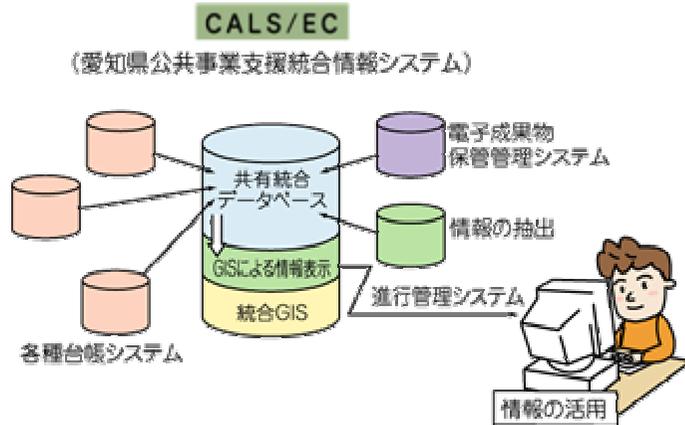
発注見通しや入札結果の公表、総合評価落札方式や設計プロポーザルなどの多様な入札方法の拡大により、透明性の向上や公正な競争の促進に努めるとともに、施工体制の点検強化などによる適正な施工の確保を図ります。

事業の透明性の向上や公正な競争の促進を図るため、CALS/ECを推進します。その主要な取組の一つである電子調達については、県及び県内市町村でシステムを共同化し、県内全域で効率よく、また地域格差なく推進します。

CALS/ECの導入で期待される効果

情報共有

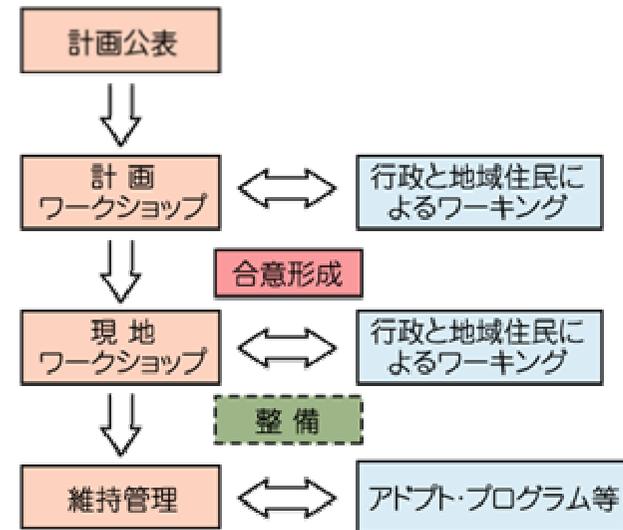
現在、紙ベースで行っている打合せや施工管理などの情報の伝達・共有を、電子メールや情報共有サーバーを用いて、より効率的で確実に行う仕組みのことで、情報共有を効率的に行う環境として下のイメージ図のような共有統合データベースの構想が考えられています。



GIS：地理情報システム

8 情報公開と県民協働

事業の必要性に対する地域住民の理解を深め、円滑な事業の執行を実現していくために、事業の各段階における住民意見の反映に努め、完了後の維持管理への住民参加を働きかけるなど、地域住民やNPO、地元企業などとの協働に取り組みます。

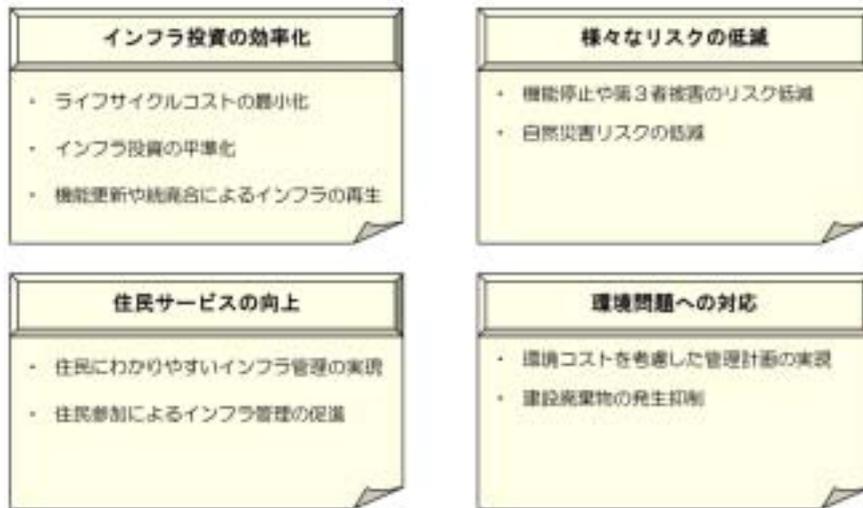


アドプト・プログラム：市民グループや企業等に道路等の美化活動に継続的に参加いただく制度

9 既存ストックの有効活用

経済社会活動や安全・快適な県民生活を支える基盤として、既存の社会資本の長寿命化や長期にわたる有効活用に取り組むことが必要不可欠です。このため、社会資本の管理にアセット・マネジメントの考え方を導入し、更新時期の平準化、トータルコストの縮減などを目指し、効率的、効果的な維持管理を進めます。また、路上工事の縮減やETCの普及促進と活用による交通渋滞対策、災害関連情報の的確な提供など、ソフト施策との連携による既存ストックの有効活用に努めます。

アセットマネジメントの導入で期待される効果



— みらい社会環境フォーラム報告書より —

アセット・マネジメント：道路の舗装、橋梁、トンネル、排水機場などの構造物を社会資本整備における資産と捉え、その損傷や劣化等を将来にわたり把握することで、最も費用対効果の高い維持管理を行うこと

＜ 建設部の目指すべき方向の体系 ＞

